



2026

# 学校だより **本荘** Smile

令和7年度 第49号  
令和8年3月12日  
熊本市立本荘小学校  
校長 西川 英臣

## 5年生理科、4年生国語の研究授業の様子です。授業っておもしろいんです！



2学期の締めくくりとなる12月17日、5年生と4年生の研究授業が行われました。

5年生は理科で、指導に当たるのは専科の石橋道緒先生です。単元は「振り子の運動」。これが非常に興味深い授業でした。この学習では、「振り子が1往復する時間」のきまりを見つけ出します。子どもたちは、「1往復する時間を変える条件は何だろう？」という問いを持ち、次の3つの予想について検証していきました。

- ① ふりこの長さ（ひもを長くするとどうなる？）
- ② おもりの重さ（重くすると速くなる？）
- ③ 振れ幅（大きく揺らすと時間がかかる？）

実は、振り子の法則には大きな秘密があります。1往復の時間を変えるのは、「ふりこの長さ」だけなのです。「重くしても、大きく振っても、時間は変わらない」という意外な結果に、子どもたちは驚くのです(笑)。

この単元では、「条件制御（変える条件と変えない条件を整理すること）」という科学的な思考を養うことを目指します。「重さの影響を調べたいなら、長さや振れ幅は絶対に変えてはいけない」という、科学の基礎となる実験のルールを、授業を通して身に付けていきました。

石橋先生は本格的に教職を始めてまだ2年なのですが、素晴らしい授業力の向上を見せておられます。それもうれしい校長先生でした。／

同日、4年生では国語の研究授業が行われました。単元は「ごんぎつね」です。下原先生の算数の研究授業でも活躍してくれた4年生の皆さんは、自然な「対話」ができるので、授業の話合いの場面がとても面白いし、対話でとことん疑問点を話し合うので、理解がとても深いのです。

新美南吉の代表作「ごんぎつね」は、いたずら好きのごんぎつね「ごん」と、村人の「兵十（ひょうじゅう）」をめぐる切ない物語です。母を亡くした兵十に、ひとりぼっちの自分を重ねたごんは、償いのつもりで毎日こっそり栗や松茸を届けます。しかし、それとは知らない兵十は、またいたずらに来たと思い込み、最後にごんを撃ってしまう——。ご家庭の皆さんも習ったことがあるでしょう。「ごんぎつね」は、昭和31年から約70年連続で教科書に掲載され続けています。相手を思いやる気持ちがあっても、伝え方やすれ違いによって届かない悲しみ、そして「心の通じ合い」について深く考える作品です。「ごんのつぐないは兵十につたわったのか」という、物語のテーマに直結する鋭い「問い」について子どもたちが意見を重ねていきます。この「問い」は子どもたちがこの物語を読んで、自分たちで疑問点を出し合いながら練り上げた学習課題です。それだけでも大したものですが、すごく深い意見がたくさん出て、みんなでしっかりと話し合ったすばらしい45分となりました。(校長)



## 校長先生の虫眼鏡「もちつき大会の様子です」

2月1日(日)本荘小学校で、ロケット教室がありました。校長先生も参加したかったけれど、長崎で用事がありましたので、参加できませんでした。昨年度の卒業式式辞の中で紹介した。植松努さんたちが、世の中のこどもたちに夢を与えるために活動しておられるイベントの一環だそうです。今回は試しなのです。本番は3月21日です。今度は校長先生も行きますよ!!



親子でロケット製作!いいですね



発射装置にセットされました



みのり保育園の今村園長先生もご家族で参加です。



いよいよ点火です



紙ですが、ちゃんとしたロケットの形ですね



カッコいいですね